



大溪生態木藝博物館



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/412/



エリア

桃園市

テーマ

歴史

産業



大溪木芸生態博物館

台湾の歴史が凝縮された街全体がつくる博物館

この地域一帯は、台湾の木工芸産業の中心地として、200年以上の歴史をもっています。大溪木芸生態博物館はそうした木工芸産業の文化や歴史にとどまらず、清朝時代から続く邸宅や老街、日本統治時代の警察官舎群や道場(武徳殿)、戦後の蒋介石の滞在施設などが点在する地域をひとまとめの文化区として保存、整備しています。そして、街並み自体が博物館というコンセプトのもと、「囲いのない博物館」として、歴史の記憶や人々の生活を伝えようとしています。歴史的な街並みには、今もなお生活を続け、伝統工芸を営み続ける人々もあり、こうした住民たちが「街角館」として重要な役割を担っていることも、この博物館の特徴です。

学びのポイント

1.

なぜこの場所に台湾の歴史が集まつたのか？

大溪は桃園市南部の山岳部への入り口、淡水河の支流である大漢渓沿いの台地に位置し、清朝の時代から山岳部で伐採した木材を運ぶための水運が栄えました。日本統治時代になってもその役割は変わらず、さらに八田與一ら日本の技師によって、現在の石門ダムのもととなる灌漑施設が付近に造られ、多くの日本人が暮らしました。さらに、戦後の台湾を統治した蒋介石は中国大陆の故郷に似たこの地を愛し、日本統治時代の公会堂を別荘として、しばしば訪れました。このようにして、大溪には清朝、日本統治時代、そして戦後の歴史が積み重なっていました。

2.

昔から現在、未来へと受け継がれるものは何か？

この地域で、各時代を通じて受け継がれてきたものは、博物館の名前にもなっている木工芸の技術や文化です。この博物館では、この地域で木工芸をはじめとする伝統的な産業に携わってきた人々が「街角館」として自分たちの工房や生活空間を開放しており、生活の歴史を語り継いでいます。また、清朝から続く伝統的な街並み(老街)では、日本で生活する私たちから見ても懐かしい、あるいは馴染み深い木製のおもちゃや生活用品を売っている店が沢山あります。こうした伝統は、この街の歴史のなかで受け継がれ、積み重なってきたものです。